

平成 19 年度前原支部研修会の報告

前原支部 藤井 陽子

残暑厳しい中、前原支部では、8月22日お二方の講師をお招きし、研修会を行いました。県及び市町会員あわせて20名近くの方に参加していただきました。

一人目の講師として、福岡県の輸出促進事業のアドバイザーを務める貿易コンサルタントでアジアネット代表の田中豊氏に、「アジアに攻める福岡産農作物の可能性と挑戦者たち」と題し御講演いただきました。

100枚近くの最新のアジア各国の写真を見ながら、最新のアジア事情、そして福岡県の農作物の輸出への挑戦についてお話がありました。ここ数年で、中国・台湾は急速な経済成長を遂げ、人々の生活水準の向上を伴い、今まで口にできなかった刺身・ワインなどの需要が増えました。日本のサービス業、特にコンビニや日本食レストランがアジアへ進出し、日本で見える看板がアジアの至る所で見られるようになりました。中国は、輸出国のイメージが強いですが、ここ数年の急速な経済成長により巨大な輸入国へと変わりました。その市場へ、福岡県は他県より先行してイチゴ、ナシなど農作物の輸出を行い、成功させてきました。日本の農作物は安全と品質の良さが人気で、日本では考えられないほどの高価格でも完売するそうです。今まで海外に閉鎖的だった日本の農作物は、アジアへの輸出に挑戦して市場を広めているそうです。その挑戦は自治体の積極的な働きなしには成功しないといわれたこと、日本に閉じこもらず海外市場へ挑戦して成功を導く時代であるといわれたことが印象に残りました。

次に、二人目の講師として、大日本コンサルタント株式会社事業開発部保全技術室主幹の田崎賢治氏に「橋梁に関する耐震補強の新しい考え方」と題し御講演いただきました。まず、現在までの耐震補強技術の流れとして、関東大震災等の大地震を経緯に道路橋示方書が改訂されてきたこと、耐震補強技術の向上により地震による橋梁の被害が軽減されてきたことをビデオで学びました。過去十年の間だけでも日本列島では震度6弱以上の地震が12回起きています。このことは日本中どこでも大地震が発生する可能性が高いのといえます。いつどこで発生してもおかしくない大地震に備え、既設橋梁の耐震補強を行っています。しかし、従来の耐震補強である橋脚の巻き立て工法は時間と費用がかかります。また、山間部や水中部など施工条件が厳しく困難な場合もあります。そこで、耐震補強の新工法として変位拘束工法についてお話がありました。変位拘束工法は橋台と桁の遊間部に間詰材（クロロプレンゴム）を充填し橋台部の水平抵抗を考慮する工法です。巻き立て工法では無視していた橋台部の抵抗を考慮することにより、地震による変位が小さくなるため、耐震補強が必要ない場合も出てきます。この工法は「既設橋梁の耐震補強工法事例集」に対応しており、道路橋示方書と同じ耐震性能2を確保し、恒久的な耐震補強対策となります。施工方法も従来工法のような仮設を必要とせず、伸縮継手を撤去、間詰材を設置、

伸縮継手を復旧するというもので施工性に優れています。現場によっては、歩道部に設置でき、車両通行規制なしに工事を行うこともできるそうです。コスト縮減、工期短縮、施工性に優れた工法といえます。

以上、平成 19 年度前原支部研修会の報告でした。多忙の中、前原支部会員の皆様多数の御参加ありがとうございました。